

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2015/12 号外

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集 冬休みの勉強◆

一気に寒くなってきました。3年生は受験を目前に控えてラストスパートの時期に入ります。この時期の3年生の頑張りを下級生はよく見ておいてほしいものです。今回の特集は冬休みの勉強についてです。すでに、担任の先生等から、冬休みの学習計画をたてるよう指導された生徒もいるかもしれませんが、今一度、自分の計画を考えるきっかけになればと思います。まだ冬休みの勉強について、計画も何も考えていないという人は、是非、計画を立ててみましょう。「進路のしおり」の計画表を活用してみてください。

1 3年生の冬休みをどう乗り切るか

ここまできたら、自分で考えた勉強方法をやりきるのみなのですが、気をつけてほしいのは、「センター試験の過去問」を1年分しか取り組まないなどと言っている人が、毎年少し存在することです。過去問と同じ問題はでないから、意味がないなどと言っているはいけません。最初から「意味のあるもの」などないのです。すべて「意味のあるものにするかしないか」は己の手にゆだねられているのです。センター試験の数学などは、自由に解くのではなく、指定された解き方に乗ることが大切です。マークの仕方を間違える受験生が多いのも実はこの数学です。答えに「-」の符号があったり、「分数」になった時などに、マークミスが目立ちます。過去問やセンターの類似問題演習が大切なことは言うまでもありません。

2 3年生・難関大志望者は・・・

難関大を目指す人にとっては、記述力をどう維持するかがポイントになります。これは、各教科の先生に確認してみるしかありません。センター直前期は、センターの勉強をしっかりしなければ、意外と点数を落とすことになるので、油断は禁物です。しかし、100%センターのみでいいのか、ということについては、個人の特性や各教科によってさまざまですから、担当の先生と話してみるのがよいと思います。

3 3年生・私大に力点を置いた受験をする者

文系等で私大に力点を置いて受験計画を立てている人もいるかと、思います。センター対策をするのは、言うまでもありませんが、私大の過去問への取り組みが、例年手ぬるいです。私大受験突破の最後のコツは、「過去問」を徹底的に取り組むことにあります。自習室に過去問がありますが、さかのぼれるだけ、過去にさかのぼってください。過去3年などとケチなことを言っていたらいけません。徹底的にさかのぼって取り組むのです。そして、過去問で出た問題は、きちんと解けるようにすることです。この時期、あれもこれもではなく、しっかり過去問に取り組むことを忘れずに。なお、自習室に志望校の赤本がない場合、進路資料室に入って、3メートル直進して左下に「旺文社・大学入試問題正解」という本がありますから、それも参考にしてみてください。赤本の解答に納得できない場合も利用価値があると

思います。

4 3年生・もう何から手をつけていいかわからない・・・

志望校を決めて、勉強もしなければならないこの時期は、成績の伸び悩んでいる人にとっては、つらい時期でもあります。しんどくなってきた人は「早くセンター終わってほしい」と思い始めるものです。「あと1ヶ月やって何が変わるんだろう」などとも思いやすい時期です。予備校でもう一度基礎からやり直して再挑戦しようなどとも考えます。しかし、限られた時間さえもがんばれない人が、来年度1年間もがんばり通せるはずはありません。結果はわかりませんが、入試までの限られた時間で自分の全力をぶつけてみましょう。

この時期、何から手をつけていいのやわからない人は、全力で勉強にぶつかった経験が乏しい人が多いはずです。乏しい経験をそのままにしておいてはいけません。今から全力で勉強にぶつかるのです。ただし、あまりにも自分の実力とかけ離れた志望校ばかりを志望している人は、必要に応じて、センター後、現実的なことも考えねばなりません。

さて、勉強がうまくすすんでおらず、模試の判定も悪かった生徒でしたが、見事第1志望に合格した先輩の話です。「何が合格に結びついたと思う？」と確認したところ、その先輩曰く、「過去問演習をきちんとしました。勉強は不十分な所がいっぱいあって何から最後手をつけていいのやらという感じでしたが、センター試験、私大入試の過去問演習はしっかりやったという自信があります。過去問で出てきた事柄や単語は完璧に覚えました。」と言っていました。センター試験で出た文法事項が実際私大問題にもつながっていることを3年の12月・1月になってやっとわかったようでした。

私大重点志望者が私大の過去問に取り組むことの重要性は、前述した通りです。国公立大志望者には、国公立大志願者のすべきことがあります。自分のすべきことをきちんとやりきりましょう。

担任の先生やその他の教員を頼ってみるのも行き詰まった人にはおすすめです。

5 3年生・勝負は土俵際で決まる

受験までの残りの日数は少ないですが、実は一番集中して勉強できるのが、この時期です。できることを、精一杯しましょう。先にも書きましたが、浪人覚悟でE判定ながら出願する人の中には、予備校で基礎からやり直そうと考えて、この時期の勉強が大変甘くなる人がいます。そんな状況では、何の足しにもなりません。力を尽くしましょう。

逆に、こんな貴重な話もあります。昨年度、残念ながら模試でA判定のついていた学校に不合格になった人がいました。本人曰く、「だらけるつもりはなかったが、やはり、クラスの人がC判定・D判定などと聞くと、自分は、A判定だけに何か合格できそうな気がして、最後の冬の勉強に手を抜いてしまった・・・」と。模試での成績でよい判定がついている人は、C判定くらいの人がどんな気持ちで勉強しているか想像してみて、絶対に最後まで手を抜くことなくがんばり抜いてほしいと思います。

例年、良い意味で逆転して合格する人がいるということは、逆転されて不合格になる人もいるということです。

「勝負は準備で決まる」「勝負は土俵際で決まる」この2つを忘れてはいけません。「準備」といっても・・・という気持ちに3年生はなるでしょうが、試験までまだ1ヶ月あります。貴重な「準備の時間」です。加えて「土俵際」でもあります。つまり、一番重要な時期なのです。いろいろな思いは交錯するでしょうが、やるべきことしっかりやっていきましょう。

6 2年生は受験を意識した勉強を ～受験を意識した勉強とは？～

2年生は「見学旅行が終わったら受験勉強を」と、HRなどで担任の先生等から言われていると思います。しかし、「受験勉強をする」という言葉の意味を誤解してはいけないので、「してはいけないこと」「し始めなければならないこと」という形でまとめてみました。

【受験勉強 してはならないこと】

- ①「受験」という言葉に踊らされて、いきなり難しい問題を解きはじめること。
難しい問題が解けるようになることだけが「受験勉強」ではありません。簡単そうに見える問題を素早く正確に解くことも立派な受験勉強です。自分の置かれている場所から一歩ずつはじめる方が、地味ですが、意外と力がつきます。
- ②勉強時間を確保しない。まだこういう人は、少なからず存在しているのでは？
- ③計画をたてないこと。
- ④机に向かってから、今日勉強する内容を考えること。(このスタイルから早く卒業しよう)

☆「計画なんて立てていない」と軽く2年生はよく言いますが、「何かをする」ことを「していない」のではなく、「何かをしない」ということを「している」のです。つまり、「しない」という行動を自ら選択して行動しているのです。自分で選択した行動ですから結果については、高校生が負うべき範囲内で負うことが求められます。「していない」と簡単に片付けるのではなく、「しないという行動を選択して実行している」という意識を持つことです。これは「計画を立てる」ことのみに限った話ではありませんよ。こういう「自己選択しているという意識」は、受験生がもつべき意識として大切なものです。

【受験勉強 し始めなければならないこと】

- ①まず冬休みにすべきことをまとめます。
- ②すべきことを冬休みのいつやるのか、日割りの計画に落とし込みます。
- ③スマートフォンなどの使用時間は、勉強時間の10分の1以下にする。
すぐにはできない人もいるかも知れませんが、時間を無駄にしている生徒が多すぎるように思います。30分しか勉強しない人は3分以下しか使用できないと心得よう。
- ④英単語・英文法・古文単語・漢文句法などは、基本ですがこの冬休みに特にしっかり取り組むこと。ただし単語帳を眺めるだけの学習は、バスの中などではやむを得ないが、そういうスタイルだけでは、身につかないので注意しよう。
- ⑤古文単語でも、数学のある一つの分野でも、薄い問題集でも、とにかく、「最後までやってみる」努力をしよう。「漢文学習必携を、最初から最後まで一通り学習した」「数学のベクトルの問題は、すべて取り組んで理解した。ベクトルならどんな問題でも解ける」など、とにかく、ささやかに見えることでも、受験に必要な分野をやり遂げたというものを1つずつ作っていきましょう。終点までやった人は、次に勉強すべきことが見え、やる気も起きます。

☆こういうことに取り組んでいたら、「計画通りになんていかない」「もっと効率よく勉強したい」などいろいろな思いに駆られると思います。そして勉強の仕方を工夫したり、勉強時間を延ばしたりと受験生らしくなっていくのです。

7 1年生も計画から

計画をしっかりたてて学習することの重要性は、夏休み前にも述べたところです。それに

しても、夏休み明けの課題考査の成績を確認してもらいましたが、勉強不足の人が多いという印象を受けました。特に国語の漢字すらきちんと勉強できていない人もおりました。将来の夢も足下の一步から始まります。「冬休みの課題は受験に意味があるのですか」という疑問を持っている生徒もいるようですが、前述の通り「最初から意味のあるものなどない」のです。経験であれ、読書であれ、勉強であれ、自分の活動を意味あるものにするのは自分自身なのです。冬休みの課題そのものに意味があるかないかではなく、これを自分にとって意味あるものにしようと努めるのが、高校生みなさんの「仕事」なのです。

8 1・2年生 冬期講習の活用

冬期講習が、冬休みの最初に置かれている理由は、その講習を元手に冬休みに飛躍してほしいからです。講習の役割にはいろいろありますが、1つに、「時間内にできること」「できること」「できないこと」「知らないこと」に仕分けることです。講習を受けて「仕分けた」ことを、その日のうちや、残りの冬休みを使って復習したりするのが大切です。仕分けるつもりで参加しなければ、今の自分に何が身についていて、何が身についていないかもわからずじまいです。

また、冬期講習は、70分の講習を3コマ設定しています。これは、70分間継続して勉強する習慣作りのためでもあります。実際の入試は、一番短い科目でも60分間です。実はこの試験時間、集中した状態が保てない受験生が、多くなっていると感じるのです。原因の一つは、勉強時間が「こまぎれ」だからです。少しの時間も大切にしようとする心構えは立派ですが、「こまぎれ」の勉強だけでは不十分です。そこで、講習期間中は、自分の学習も70分集中して取り組む機会をつくってみることを勧めます。いつもなら、15分くらい勉強して少し休憩して、などのように勉強している人も、最低でも70分間連続して取り組んでみるのです。スマートフォンなどを使いたくなくても、勉強を続けるのです。合計の勉強時間も大切ですが、冬休みだからこそ、日頃「こまぎれ」勉強の人も「連続した」勉強をしやすいのではないのでしょうか。

さらに、講習には、「規則正しい生活をつくる」という役割もあります。講習期間中は、朝早く起きていたが、講習終了後、「昼まで寝ていた」では、講習を十分活用したことにはなりません。講習終了後の初日、つまり12月29日(火)の勉強時間・生活のあり方がとても大切です。加えて、前述したことから考えると、12月29日(火)にまた「こまぎれ」勉強に戻っては意味がありません。講習終了後の初日も70分間継続して1コマでも自分で勉強してみましよう。勉強する習慣がある程度ある人は2コマ、3コマと挑戦してみましよう。

こうしてみると、勉強内容だけでなく、勉強時間・生活時間をも整える役割があることに気がきます。ぜひ、だまされたと思って挑戦してみてください。

9 深める楽しさ

湖陵生のみなさんは、大学進学を目指している人が多いと思います。大学は、自分で追い求めていき、自分で深めていく場所です。決められた事柄を覚える学習が大切なのは言うまでもありませんが、興味をもった分野の本を読んだりして、すこし自分で、「深い所に入っていく」のも悪くありません。若いのですから、述べてきたような学習、部活動の他に、今述べた、興味ある分野に深入りする時間と体力はありますよ。本を読んだりするのも楽しいものです。

部活動の時間、家族の手伝いをする時間、自分の休憩時間なども大切にしながら、少し自分の時間を自分で考えて使ってみてはどうでしょう？よい冬休みを。